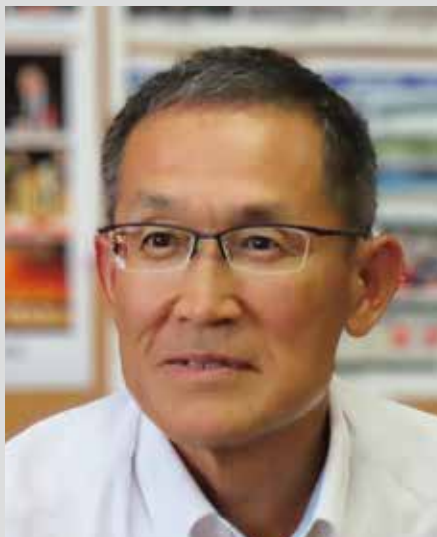


かお・人・interview

2025年8月28日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
有明海沿岸国道事務所 所長

長友 浩信氏

NAGATOMO Hironobu

有明海沿岸道路の事業は、福岡・佐賀・熊本の3県に跨る幹線道路として整備を進めている。三池港IC連絡路や大川佐賀道路など各県をまたぐプロジェクトの性質上、効率的な管理運営と調整力が不可欠だ。事業の進捗や住民のニーズに応える体制を整備する一方、今後も地域の発展に向けて、住民や建設業界との連携・協働を強化していく方針だ。今後の事業展開や方向性課題について長友所長に話を伺った。

Q 所長就任にあたっての抱負

「有明海沿岸道路」は、福岡・佐賀・熊本3県に跨る幹線道路であり本道路で結ばれる有明海沿岸地域の地域振興・観光振興に対する地域の期待も高く、今後の道路整備については地域の方々、沿線自治体、建設業界等と連携・協働して全力で取り組んでまいります。そのためには、まず私自身を含め、職員一人ひとりが自分なりに全力を尽くしてほしいと考えています。「全力で取り組む」という姿勢は人それぞれ異なりますが、成果だけで評価するのではなく、限られた時間の中で自分にできることを一生懸命やり、分からないことは遠慮せず積極的に周囲に相談しながら進めしてほしいと思っています。



▲有明筑後川大橋の春

お互いの考えや目標を共有することで、無駄のない効率的な業務が実現できます。職場全体で支え合い、チームワークを深め、より良い組織を築くとともに有明海沿岸地域の発展に向けて、貢献していく所存です。

Q 福岡県や九州地区との関わり

福岡(北九州)生まれ、福岡育ちです。勤続37年になりますが久留米市役所への出向も含め28年は福岡県内での勤務です。有明海沿岸道路関係では3回目になります。

特に印象に残る仕事は、平成27年3月「東九州道佐伯～蒲江間」の開通時に





▲三池港IC連絡路

佐伯河川国道事務所在籍であり関わることができました。当区間の開通により東九州道が北九州市から宮崎市まで繋がるので経済効果や地域の期待の高さにプレッシャーを感じていました。多くの課題や難関（開通予定1年前に大規模な斜面崩壊）はありましたが事務所、工事関係者、地域の方々と連携し目標に向けて懸命に対処したことで無事開通を迎えることができました。また、整備局勤務の時には熊本地震での国道57号崩壊、翌年の九州北部豪雨での朝倉地域災害対応も大変でしたが、この経験は私のモチベーションになっています。

牟田～大川）」(延長27.5)の三池港IC連絡路(延長2.7km)、「大川佐賀道路」(延長9.0km)及び荒尾道路(延長2.2km)の3区間の事業を進めています。大川佐賀道路の「諸富IC～(仮称)川副IC(1.1km)」については、令和8年度開通目標を4月末に発表したところです。



▲大川佐賀道路



▲事業位置図

Q 当事務所の紹介（事業内容、組織、特徴）

有明海沿岸道路は、熊本県熊本市から佐賀県鹿島市に至る高規格道路で現在39.2km(国整備29.2km、佐賀県整備10km)が開通しています。同道路を整備することにより、広域交通ネットワークが形成され、地域間の連携及び交流促進、観光振興、救急医療活動を支援します。現状でも、九州佐賀国際空港や重要港湾三池港へのアクセス向上により企業進出・観光面等で効果が発現しています。

現在、国の直轄整備区間として「有明海沿岸道路(大



▲三池港IC連絡路

Q 今年度の事業概要

今年度は、福岡県大牟田市の三池港ICから熊本県荒尾市の荒尾競馬場跡地を結ぶ三池港IC連絡路においては、主に橋梁の下部工工事を推進しています。また、橋梁上部工の架設に着手します。

熊本県内の荒尾道路については、地質調査、道路設計を行っています。大川佐賀道路の諸富IC～(仮称)川

副IC間においては、地盤改良工事、橋梁の上下部工工事を進めます。

Q 地域との連携・協働について

近年、気候変動の影響による局所的な大雨や大雪という異常気象、また地震によって大きな災害になるケースも増えています。災害等発生時においては、迅速かつ的確な対応を行い、安全・安心の確保や、速やかな地域・経済活動の回復が望まれます。災害に対して、迅速かつ的確な対応

を行うためには、日頃より災害に対処する備えや関係者による支援体制の確立は必要不可欠です。当事務所では、毎年当該地域の建設業に関わる企業と災害対応に関する災害協定を締結させていただいています。災害が起こらないことを願いますが、万が一発生した場合も地域社会の安心・安全を守るため、一致団結して取り組んで参りたいと考えています。

有明海沿岸道路は、高架構造区間が多く、耐震性も高いので地震や豪雨による冠水などで一般道が通行不能になった時でも救命救急活動に活用が可能です。その機能を確保できるよう災害時等の迅速な対応に努めます。そのためにも日頃より、地域の方々や災害協定締結の企業とよりよい関係づくりをおこないたいと思っています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

地域の生活や経済を支える建設業のみなさんは、強力なパートナーです。建設業に関わる若手が増える、建設業界の活気・魅力を高めるなど全体的な底上げができればと考えています。

災害に対しても、災害が起きる前から資機材を準備し待機されるなど普段見えないところから、いざ災害が起これば、応急的な復旧、次の災害に備えての防災・減災対策まで、地域の守り手として日常の生活に欠かせない重要な役割と責任を持って取り組まれています。

これからの強靱な国土づくりに、われわれを含めた業界全体の技術力と行動力を将来を担う若い人たちにともに伝えていきたいと思っています。一方で、人口減少



▲矢部川大橋（橋梁点検状況）

や高齢化が進む中で、担い手不足も課題となっており、建設業における働き方改革として、魅力ある職場になるため、さまざまな取り組みが進められています。

令和6年4月から時間外労働規制が建設業に適用されたことを踏まえ、九州地方整備局では、働き方改革を実践していく上で、「5つの運用基準(5ルール)」と「勘所」を策定しました。受注者と発注者が対等な立場で現場の課題を解決する仕組みを構築し、生産性の向上としてICT技術の

導入や、週休2日制の推進等働き方改革に積極的に取り組み将来の担い手となる若手が安心して入職できる魅力的な建設業界となるよう建設業界とともに取り組んでいきたいと考えています。

Q 趣味や座右の銘について

現在楽しんでいる趣味はゴルフです。入省した際、夏のボーナスで当時の先輩に誘われ、ゴルフクラブのセット一式を買いに行ったのがきっかけでした。それから気が付けば30年以上が経ち、最近になってやっと真剣に取り組むようになりました。

特に、春先の緑が美しい季節のゴルフは格別で、仕事のストレス解消を兼ねてコースに出かけています。しかし実際は、思った通りのショットが打てず、逆にストレスを感じる日も少なくありません。それでも、数少ないナイスショットが出た時の喜びや、一緒に回る仲間との会話が何よりのリフレッシュとなり、次の週からの仕事への活力です。こうした繰り返し、今では私にとって楽しみとなっています。

プロフィール



福岡県出身、58歳
H元 年4月 4月建設省入省
(延岡河川国道事務所 工務課)
H25 年4月 佐伯河川国道事務所 工務課長
H28 年4月 道路部道路管理課 課長補佐
H31 年4月 福岡県久留米市 都市建設部長
R 4 年4月 道路部道路管理課長
R 6 年4月 九州道路メンテナンスセンター長
R 7 年4月 現職